



YMCA

NEWS

神戸青年

No. 601

2010.4

April

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/坂本 庸秀
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL . 078-241-7201 FAX . 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷



神戸YMCA
年間聖句

主を待ち望め。雄々しくあれ、心を強くせよ。
(詩編27編14節)



神戸YMCA創立記念日礼拝

神戸YMCAは、1886年(明治19年)5月8日に諏訪山にあった紅葉館で発会式をあげ、この5月に124周年を迎えます。125周年を来年に控えた今年の創立記念日は、記念礼拝をもって創立当時の指導者たちの志をあらためて思い起こすと同時に、未来に向かって私たちの志を確認したいと願います。どなたでもご参加ください。

メッセージ: YMCAの歴史を支えてきたもの
~ YMCA運動史編集から見えたもの ~
坂口 順治氏
(東京YMCA名誉会員・元平安女学院大学学長)

プログラム: 第27回タイ・ユースワークキャンプ報告
(予定) 神戸YMCA混声合唱団くさぶえの合唱

日 時: 5月8日(土) 5:00 ~ 6:30p.m.

会 場: 神戸YMCAチャペル

YMCAの皆様方に、
「イースター
おめでとございます」と
「あいさつ申し上げます」と

日本基督教団 主恩教会
牧師 相浦 和生



「イースター おめでとござ
ざいます」。毎年、イースター
の礼拝説教の冒頭でわたしは必
ずこのように申してきました。
教会員・会友の方々も「おめで
とございます」と応えてくだ
さいました。このあいさつは神
様にささげる最高の信仰告白で
あると信じています。

ではイースターは何故おめで
たいのでしょうか。答は、
「イースターのめぐみによって
教会が誕生したから」「イース
ターのめぐみによってYMCA
が誕生したから」です。イース
ターは日本語で「復活日」で
す。「復活? 死んだ人間が復
活するなんて信じられない。」
多くの人はそのような思っ
ています。しかし、イースターに
思うことはそのことだけでし
ょうか。
ハイデルベルグ信仰問答の問
45は「キリストの『よみがえ
り』は、わたしたちにどのよ
うな益をもたらしますか。」で
すが、答の中に「第二に、そ
の御力によってわたしたちも
今や新しい命に生き返らせてい
る、ということ。…」とありま
す。即ち、「神が計画なさった
こと、約束なさったことは必ず
実現する」ということです。こ

れがキリスト教信仰の核心で
す。
教会牧師館に各国から集めら
れた十数個の「イースターエツ
グ」があります。色とりどりに
デザインされている芸術作品と
もいえます。イースターエッグ
で「雉啄(そったく)」という
ことばを思います。雉 はひ
なが卵の殻を破って出ようとし
て鳴く声、啄 は母鳥が殻を
つつき割る音です。
YMCAの中で「イースター
おめでとございます」のあい
さつが響きわたる時、神様は必
ずYMCAに新しい命をくださ
います。

サポートプログラム 15周年記念講演会と報告

1994年に西宮YMCAで
スタートした発達障がい児サ
ポートプログラムが15年の節目
を迎えたことを記念して、2月
28日(日)「コミュニケーション
の力を育む」をテーマに講演
会を行いました。

前半の基調講演は、言語聴覚
士で「子どもの発達支援を考え
るSTの会」代表の中川信子氏
をお招きして、お話をいただき
ました。実践や具体的な事例を通
じた内容はとても分かりやすく
参加者の方々はうんうんとうな
ずきながらメモをとっておられ
ました。「子どもは、球根」の
ようなもので、育ちどきも出来
上がり(咲く花)も違うもの
の、「一番大切なのは、大人が
子どもの「伝えたい気持ち」を
育てること」などのコミュニ
ケーションの土台の話や、「発
達障がいバンザイ!!」といえ



るような社会づくりを目指そう
とのお話がありました。
後半のシンポジウムでは、サ
ポートプログラムスーパーバイ
ザーの竹田契一氏の司会の下
で、元主任講師の西岡有香氏、
吹田市教育センターの森田安徳
氏、西宮YMCAアトリエク
ラスの藤井昌子氏、神戸YMCA
A総士の水野雄二氏の4名の
方々にさまざまな視点から「コ
ミュニケーションの力を育む」
ことについてお話をしていただ
きました。どなたも、子どもた
ちとの活動経験が豊富な方ば
かりで、内容はとてもリアリ
ティがあり、子どもたちのため
に!!という思いが伝わってくるシ
ンポジウムとなりました。子ども
たちを取り巻く環境が変化して
いく中で、家庭だけではなく、
学校や、YMCAのような民間
機関・病院、行政などの公的機
関、地域や社会といったチーム
ワークでのサポートの大切さを
感じる事が出来ました。

当日は、約250名の方々に
お越しいただき、盛大に行うこ
とができました。多くの参加者
の方々を目の当たりにして、改
めて発達障がいへの関心の高
さを知ったとともに、子どもた
ちへのよりいっそうの支援の必
要性を感じた一日となりました。



先日、新聞のあ
る記事が目にと
まりました。英
国の航空会社
が、機内アナウ
ンスを飛行機の
目的地の方言
でする、そんなユニークな
サービスを、イタリアの国内
線ではじめたそうです。イタ
リアも日本と同じで、方言が
沢山あり地方によって微妙に
言葉がちがうそうです。「村
の数だけ方言がある。」とも
いわれています。旅を日常生
活により近づけ、家にいるよ
うなくつるいい気分になっ
てほしいというのが、新サー
ビスのねらいです。離陸時や揺
れた時の万国共通のアナウ
スは、「安全のため、シート
ベルトをお締めください。」
特派員の出身地の広島弁に
すると、「危ないけえ、シート
ベルトをつけんさい」となる
そうです。では、神戸弁で
は、「危ないけど、シートベ
ルトつけとぅ?」でしょうか
ある作家が、若い頃自分の
訛りが、恥ずかしくて、食堂
でなかなか注文が、できな
かったそうです。だが後年、
それが持ち味となりその作家
の語りは、炉辺談話の趣をか
もして、人気となったと聞き
ます。2月、専門学校で、ホ
テル学科の実習発表会が行わ
れました。ある学生が、緊張
のホテル実習の毎日、ある日
お客様の会話から聞きなれた
自分のふるさとの言葉がきこ
えてきたそうです。ふっと、
いままでの緊張のときがほぐ
れて、和やかな、暖かいサー
ビスができ、実りある実習を
終えました。人を暖かい気持
ちにさせるふるさとの言葉
は、大事にしたいものです。
(浜瀬 真知子)

